

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105263
法人名	(株)MMC ドリームサービス
事業所名	グループホーム フレンド
所在地	松山市湯渡町3-18
自己評価作成日	平成27年8月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年8月18日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>1ユニット9名なので、利用者・職員間の信頼関係が深く、共同生活のなかで安心した生活を提供できている。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>奥道後の温泉を引き湯しており、概ね午前中が入浴時間となっている。併設デイサービスの広々としたお風呂を好む利用者もあり、時々利用できるよう支援している。          今年のお盆には、職員2人が同行して、利用者の希望で自宅の盆供養に帰られるよう支援し、利用者は殊の外喜ばれたようだ。自宅を恋しく思う利用者には、自宅周辺までドライブに誘うこともある。          法人代表者と職員2名は、地域包括支援センターが主催する地域の小学校で行う、「認知症の絵本の読み聞かせ」に協力している。          法人内研修は、外部から講師を招く等、定期的実施している。法人代表者は毎日のように顔を出し、利用者にはもちろんのこと、職員にも声かけして、意見に耳を傾ける等、「職員一人で抱え込まないよう、法人全体で一人ひとりの職員を支える」姿勢を大切にしている。</p>
---

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ol>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くいない</li> </ol>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>			

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム フレンド

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

岸 光浩

評価完了日

H27 年 8 月 6 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 毎月のカンファレンスにて、運営方針について話し合い、理念である「心豊かに・穏やかに・自分らしく・地域と共に」を具体化し、日々現実に向けて、職員一同が取り組んでいる。 (外部評価) 事業所の理念にもとづき、年間目標を作成しており、今年度は「誠」と目標を掲げ、「誠心誠意利用者に向き合う」姿勢を大切にした支援に取り組んでいる。又、職員個々でも月目標を立て、スタッフルームに掲示して月末には自己評価する仕組みを作っている。法人代表者や管理者は、理念について日々の中で具体的に語ったり、身をもって実践して職員をけん引している。居間には、利用者が毛筆でしたための理念と年間目標を掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事に積極的に参加し、職員・利用者様の顔を覚えていただけるよう努めている。運営推進会議を通して、地域行事予定を聞き参加している。町内会にも属し、町内便りを頂いている。 (外部評価) 事業所では開設以来10年間、地域との関係づくりに地道に取り組んでいる。併設デイサービスに来るコーラスや書道等のボランティアの方達と交流し、又、毎年、隣接する小学校の運動会に出かけて行き、利用者用に用意してもらっている座席から子ども達を応援している。小学校で開かれる校区の盆踊り大会や虫鑑賞会にも参加している。町内サロンを事業所で行った際には、近隣の高齢者が10名ほど訪れ、利用者は幼なじみに会うこともできたようだ。校区の高齢化が進む中で、管理者は、「今後も、事業所の専門性や有用性を活かし、地域のコミュニティーの拠点になるよう取り組みたい」と話していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議にてグループホームについて深く理解していただけるような議題にし、地域の方にも分かりやすい内容にして話し合いをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 毎月のカンファレンスを通して話し合いを行い、実際に地域行事への参加など、改善に取り組んでいる。運営推進会議では、取り組んでいる内容を報告し、地域の方や、ご家族に意見をいただいている。</p> <p>(外部評価) 会議は偶数月、第二木曜日の午後で開催しており、町内から町内会長と幹事、民生委員2名が出席している。会議時には、活動内容を報告したり、テーマを決めて勉強する時間を設け、意見や情報交換を行っている。ご家族には、会議案内や内容報告を行っているが、ご家族の都合もあり、ここ数年は会議への参加はないようだ。管理者は、「ご家族の参加につながるよう工夫し、今後も働きかけて行きたい」と話していた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議の中で、市の担当者に取り組み等の話をしたり、助言をいただいている。町内会長や民生委員とも、密に連絡をとり、地域行事に参加している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、市及び地域包括支援センター、社協の担当者からテーマに沿ってアドバイスや意見がある。法人代表者と職員2名は、センターが主催する地域の小学校で行う、「認知症の絵本の読み聞かせ」に協力している。法人代表者は「子ども達から純粋な意見が返ってくることに感銘を受けることが多い。今後、隣接の小学校でも実施できるよう働きかけていきたい」と話していた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 現在は、身体拘束を行っていない。定期的に勉強会も行い、日々の業務の中で、みんなで話し合いながら介護をおこなっている。</p> <p>(外部評価) 玄関は自動ドアとなっており、自由に出入りできるようになっている。現在、転倒防止のため、ご自身で移動する際に職員を呼べるようにコールを胸にかけている利用者が1名、居室にセンサーマットを設置している方が3名いる。ミーティング時、定期的に身体及び言葉の拘束を行わないよう確認し、ケアについて話し合っている。職員は「『待っという』という言葉を使わない、待たせない介護を心がけている」と話していた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 毎月のカンファレンス・毎日の引継ぎを通して、職員間で確認を行っている。定期的に虐待についての勉強会を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 実際に活用されている人はいないが、協力体制は整っている。制度の理解に関しては、職員全員で勉強会を行う予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書の中に、利用者様の権利・義務について明記している。契約時には、口頭で分かりやすく説明を行っている。運営推進会議でもそれらのことについて、お話いただく機会があった。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に、意見箱を設置しており、気軽に意見を表せるようにしている。又、ご家族の面会時には、積極的にコミュニケーションをとると同時に、可能な限りご要望等お伺いするように努めている。 (外部評価) 利用者の暮らしぶり等については、ご家族の来訪時や電話、季刊紙「フレンド新聞」、又、利用者個々の担当者による毎月の手紙で報告し、意見や要望をうかがっている。毎日のように来られる方や、春のお花見や年末のもちつきに参加するご家族もある。	利用者の暮らしをご家族とともに支えていけるよう、さらに、ご家族の理解や協力を深めていけるような取り組みに工夫してほしい。一緒に勉強したり活動するような機会を積極的につくってはどうか。運営推進会議へのご家族の参加にもつなげてほしい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のミーティングにて、それぞれの職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	
			(外部評価) ミーティング時には、職員から「利用者にとって楽な移乗の方法」「排泄支援」等についての提案が出され共有しており、併せて「骨折の予防」「既往歴」等テーマを決めて学習して認知症ケアの基本を常に振り返って話し合っている。又、「痰吸引」等の外部研修の参加をすすめ、職員の要望に沿ったスキルアップの向上にも努めている。法人内研修は、外部から講師を招く等、定期的実施している。法人代表者は毎日のように顔を出し、利用者にはもちろんのこと、職員にも声かけして、意見に耳を傾ける等、「職員一人で抱え込まないよう、法人全体で一人ひとりの職員を支える」姿勢を大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 毎月、各職員が自己目標をたて、目標達成に向けて日々、努力している。月末には10段階の自己評価をしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員研修プログラムを作成しており、重ねて法人内での勉強会、法人外への研修参加も行うようにしている。又、研修で習得したことを、職員間で共有できるよう研修報告を行っている。新人職員に関しては、1ヶ月間毎日の研修記録、現任職員の指導・評価をおこなっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会の研修へ参加し、交流を持つようにしている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人自身の希望要望を重視したアセスメント、懇談の機会を持つように努めている。又、担当者を中心に、本人の思いに気づくように、目・気配りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初期段階で、管理者を中心にご家族の希望を聞く機会を作っている。又、面会時の会話を積極的にとり、ご家族の要望を職員間で共有している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 在宅介護・リハビリ等のさまざまなサービスを視野に入れた対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 理念を元に、一つの家庭として日々の生活を共に送ることを基本として業務に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族が面会し易い環境作りに努めている。又、運営推進会議にも参加していただけるよう声かけし、意見交換し易い関係作り、ホーム作りに参加していただくよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入所前の職員全員での会議、体験入所など取り入れ、慎重に初期段階での対応に心掛け馴染みながらの支援に努めている。外出などでは、ご本人が慣れ親しんだ場所を目的地に選んだりしている。	
			(外部評価) 誕生日には、ご家族と一緒に外食してお祝いする方もある。年賀状や暑中見舞いを書くことを習慣としている利用者もあり、投函は職員が支援している。頻回に来訪するご家族の中には、手作りの季節の果物のコンポートやジュレを他の利用者の分まで持参して、皆とも親しく交わり、他の利用者がお菓子のリクエストをすることもある。利用者の半数以上が、入居前に1階のデイサービスを利用していたこともあり、顔馴染みの利用者や職員に会いに行けるよう支援している。又、階上の高齢者賃貸住宅に住まう方の来訪もあり、利用者とのティータイムを過ごす等、馴染みの関係となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士で、お世話をしたり協力して作業を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も、電話での連絡・手紙等で継続した関わりを持つようにしている。又、職員がご本人に会いに行ったりしている。病院への長期入院の方に対しては、退院時の支援を行っている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話の中や、様子などで、希望等の把握に努めている。日々の生活の中で、ご利用者に対する「気付き」を大切にしている。 (外部評価) 日々のかかわりの中で得た、新たな利用者の思いや希望等は、生活日誌や連絡帳等にて共有している。アセスメントシートは介護計画作成時に見直している。	管理者は「利用者が最後までその人らしい人生を全うできるよう、さらに、一人ひとりの思いに寄り添った個別ケアの充実を図りたい」と話していた。利用者の思いや希望を介護計画につなげて、その人らしい暮らしが続けられるような支援に工夫してほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人はもちろん、ご家族との会話を通して、生活歴・暮らし方などの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録・生活日誌・夜勤記録・バイタルチェック表・連絡帳をもとに、日々の変化が暮らしの中で把握できるよう引継ぎを徹底して行っている。又、地域行事も含め、ご利用者が(出来ること)に参加できるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ご本人とは日々のかかわりの中で、ご家族とは面会時などで意向を伺い、センター方式を利用して介護計画を作成し、6ヵ月毎の見直し変更行っている。モニタリングは、毎月おこなっている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、全職員で検討して、利用者やご家族の要望を反映しつつ、職員からもケアについてご家族に提案しながら作成している。「自分でできることは自分でします。難しいところは手伝ってもらえると助かります」と希望する利用者には、ご本人のできることや得意なことを踏まえて郵便物の管理や服の選択はご自身で行ってもらい、ズボンや靴下を履く際には、職員が介助してしている。介護計画を日々の介護記録と合わせてファイルし、照らし合わせながら実践できるよう取り組んでいる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) ケース記録・生活日誌・夜勤記録・連絡帳をもとに、日々の変化・状況の把握が職員間で共有できるよう努めている。介護計画の見直しがある場合は、カンファレンスを行い話し合っている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ご本人の希望や状態、ご家族の意向に応じて、さまざまな対応が出来るよう努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域の公園を散歩したり、近隣の学校内での地域行事に参加している。又、地域の方に来訪していただき、書道やサロン等を行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) ご本人・ご家族の希望を優先している。数名は、ホームの医療連携病院を主治医とされているが、その他の方々は、入所前に行かれていた医療機関をそのままになられている。</p> <p>(外部評価) これまでのかかりつけ医を受診する場合は、基本的にはご家族が付き添うようになっている。月2回、協力医療機関の医師の往診があり、訪問歯科も受けられるようになっている。今年6月に施設内に訪問看護センターが開設され、日々のバイタルサインを報告する等、連携して支援している。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 医療連携が直ぐに対応できる体制が整っている。又、日々の変化等を医療連携担当者に報告するように連携がとれている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) ホームの主治医と入院医療機関とで、情報交換をしていたら、適切な医療が提供されており、退院してから安心して過ごせるようにしている。又、月2回の主治医の訪問診療時に、少しの変化でも報告している。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) H23年8月 重度化した場合における対応に係る指針を作成した。ご本人と家族様に説明し、意思確認をしている。H27年1月には、実際に看取りをおこなった。今後も看取りに関する勉強会を定期的におこない、支援に繋げている。</p> <p>(外部評価) 今年1月に、かねてよりご家族の希望があり、事業所で初めて看取りを支援した。ご本人は以前から「100歳までは生きたい」という強い意志を持っておられ、100歳の誕生日会を盛大に皆でお祝いしたあと、2週間後に穏やかに旅立たれたようだ。亡くなる2日前まで口から食事をとれるよう支援する等、職員が一つになって支援した。ご家族とも密に連絡し合い、最期の日には、ご家族と水入らずの時間を過ごしてもらえよう配慮した。運営推進会議時には取り組みについて報告した。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時や事故発生時のマニュアルをもとに、カンファレンスにおいて確認しあっている。又、緊急連絡網の周知徹底をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練(日中・夜間それぞれ想定しての)を定期的に行っている。運営推進会議で議題に取り上げ、町内会とも連携がとれるように話し合っている。玄関先にも防災マニュアルを置き、職員全員で防災意識を持てるように努めている。	
			(外部評価) 年2回、避難訓練を建物内施設全体で実施している。運営推進会議時には、町内会長が校区の自主防災組織の責任者でもあることから、アドバイスをもらうことも多い。校区の避難訓練には、職員3名が参加し、「声かけの仕方」「AEDの使用法」「ガラス窓のシートの貼り方」等の講習も受けている。地域に向けて、災害時には事業所を避難場所として提供できる旨を発信しており、又、AEDを設置し、備蓄にも取り組んでいる。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉掛けや、対応はしっかり出来ている。ご本人の生活歴などを考え、ご本人の人格を尊重した対応をカンファレンスで話し合っている。	
			(外部評価) 管理者は、職員に「人生の先輩である利用者へ、常に敬意を払って対応するよう」促している。昼食時には、職員は利用者のペースに合わせて落ち着いた丁寧な口調で言葉かけしており、又、午後のひとときには、利用者の横に腰掛けて本と一緒に読む等、ゆったりと穏やかな時間を過ごせるよう支援していた。職員は「利用者が孤独感を感じないよう、一人ぼっちにさせないように心がけている」と話していた。布パンツ使用の利用者が、下痢等のため一時的に紙パンツの必要性が生じた場合には、利用者の心情に配慮して丁寧に説明している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の会話を大切に、ご本人の言葉・表情で思いや希望に気付くように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ケアプランに沿って、生活のリズムに配慮しながらご本人のペースを大切に、自分自身のホームでの生活のリズムが確立されるように支援している。希望に対して直ぐに対応が出来ない時には、個々にあった声掛けをして納得していただけるよう心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご本人・ご家族の意向に合わせて、その人らしい身だしなみができるようにしている。又、外出時には、お化粧品などをしておしゃれの楽しみをもてるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒に準備や片付けは困難であるも下膳や食器拭きなどできることを見つけ、協力して家事を行っている。また、盛り付けを工夫したり、食卓にいつもお花があるようにして、食事が楽しめるような環境作りも行っている。 (外部評価) 朝食は事業所で手作りしており、昼・夕食は業者からできた食事が届き、事業所で盛り付けて配膳している。ご飯は事業所で炊いている。お茶碗と湯のみ、箸はご自宅から持参する等、使い慣れたものを使用している。食事中はBGMを流し、利用者の食べるペースやその日の状態等を踏まえ、3ヶ所の食卓に分かれて、それぞれに職員が同席して同じものを食べながら介助していた。利用者が食事づくりにかかわることはあまりないが、頂き物のつくしのはかま取りや菓物の盛り付けをすることはある。業者には、利用者の希望でメニューを散らし寿司や味付けご飯に変えてもらったり、旬のものを取り入れること、味の濃さ、硬さ加減等は伝えて、考慮してもらっている。	事業所では、看取り支援を契機に、最後まで口から食べることを楽しめるよう、嚥下機能が弱り、飲み込みが難しい利用者にとって、見た目もよく食べやすい食事について研修会を予定したり、水っぽくなりがちなミキサー食の改善にも取り組み始めている。今後さらに、食事一連を通じて、利用者一人ひとりの力を活かし、食事をより楽しく、おいしく食べられるよう工夫を重ねていってほしい。時には、ご家族も一緒に食事するような機会を作り、食事内容や支援について現状を知ってもらったり、意見や要望をうかがってみてはどうだろうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量とも適切に確保できるよう支援している。ご本人の好きな食べ物・飲み物を伺い提供できるようにしている。糖尿病をお持ちの方には、食事量を考えたり、定期的に血液検査を行っている。誤嚥や咽の危険のある方には、個々に合った食事形態を考えミキサー・きざみ、水分にはとろみ使用し工夫して対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアは、声かけ・見守り・介助を行い徹底している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンの把握及び自立支援のため、個別でのカレンダー式のチェック表を作り、時間帯等一人ひとりの利用者様に合わせた対応をしている。	
			(外部評価) 重度で立位が難しい利用者以外は、トイレで排泄できるよう支援している。安全に使用できるよう、トイレには跳ね上げ式の手すりや背もたれが設置されている。職員の提案で、座った目線の少し上に猫の写真を貼り、立ち上がりの際の目印にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 適度な運動や食事・水分の管理で対応している。便秘が続く場合は、看護師に相談して下剤服用や浣腸・座薬の処置をおこなっている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的には、時間帯をきめていない。ご本人の希望に合わせて週2～4回と個別に対応している。発汗・排泄の失敗があった場合は、随時入浴介助を行っている。	
			(外部評価) 奥道後の温泉を引き湯しており、概ね午前中が入浴時間となっている。身体を洗ってから湯船に入る、石鹸で頭から順番に洗う等、利用者のこれまでの習慣やこだわり合わせた支援に努めている。車椅子を使用する利用者も、職員二人で介助し、全員の利用者が湯船で温まれるよう支援している。デイサービスの広々としたお風呂を好む利用者もあり、時々利用できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間不眠の方には、日中の関わり方(適度な運動や不穏にならないように密に関わる等)を工夫している。夜間は、眠前に足浴をしたり、ナイトミールを補給したりと安心して入眠できるように支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋は個別ファイルに綴じ、職員が何時でも目を通せるようにしている。変更があった場合には、連絡帳・申し送りで報告を行い、副作用を理解した上で、変化等の様子観察に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりが役割を持ち、助け合いながら日常生活が送れるように努めている。散歩・外出の機会を設け、楽しみ・気分転換を図れるように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物・ドライブ等の外出を行い、ご利用者の希望を取り入れたイベントを企画している。又、担当者が中心となり個別支援にも努めている。 (外部評価) 日常的に、隣接の小学校周辺や公園に散歩に出かけており、近所のお宅に咲く花を楽しみに出かける利用者もある。季節ごとに、桜や藤等を見に出かけ、時には喫茶店でお茶やケーキを楽しめるよう支援している。又、ファストフードやパン、日用品を買いにスーパーやドラッグストアに出かけている。今年のお盆には、職員2人が同行して、利用者の希望でご自宅の盆供養に帰られるよう支援し、利用者は殊の外喜ばれたようだ。自宅を恋しく思う利用者には、自宅周辺までドライブに誘うこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご利用者一人ひとりに応じて、お小遣いといった形で持っていていただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状や暑中見舞いを書いていただいたり、電話の希望があれば職員支援のもとかけていただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビングには、ご利用者の方の作品・写真等を飾っている。ソファやテーブル等、快適なスペースが確保できるよう配置している。家具は、温もりのある木の家具を使用している。壁には季節の飾りや、入り口にはその時折のお花を飾っている。</p> <p>(外部評価) 事業所は5階建ての2階に位置し、隣接する小学校からは、児童たちの明るい声やプールで泳ぐ歓声が聞こえてくる。玄関や居間、洗面所、テーブル席には、それぞれにヒマワリやコスモス等、季節の花を生けて、利用者が枝振りをそっと手直しされる。居間は広くゆったりとしており、調査訪問時、利用者は新聞を読んだり、洗濯物を畳んだり、新聞紙でゴミ箱を折ったり、お気に入りのボールペンでノートに向かう等、思い思いに過ごしている様子がみえた。利用者で作成した季節ごとの壁画や、利用者の折り紙作品、短冊等を飾り、管理者は「利用者の年齢にふさわしい雰囲気作りになるよう工夫している」と話していた。又、居間や階段の壁には油絵が数点飾られていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビングでご利用者同士で話をしたり、居室で自分の時間を過ごしたりと、ご本人の思い通りに過ごせるよう支援している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 基本的に家具は持ち込みにしており、ご本人の馴染みの家具を使用させていただいている。ご自分で作った作品や写真を飾り、家庭にいる雰囲気作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 居室には、それぞれにテレビやたんす、ラジカセ、ぬいぐるみ等が持ち込まれており、使い慣れた鏡台の前で髪を梳かす利用者もある。居間には利用者個人の作品は最低限にして、居室に飾り、ご家族等とも楽しめるようにしている。掃除を職員と一緒にやる方もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) バリアフリーで、リビングには手すりの設置、浴槽には滑り止めマットを使用している。トイレは3箇所あり、お待ちいただくことなくすむようになっている。又、場所が認識出来るように「トイレ」と大きく表示している。</p>	